令和５年度第１回
国土交通省大臣官房官庁営繕部コンプライアンス・アドバイザリー委員会
議事概要

開催日及び場所	令和５年７月２６日（水）Ｗｅｂ開催
出席委員	委　員　長　田辺　新一　（早稲田大学理工学術院創造理工学部建築学科教授） 委員長代理　岩島　秀樹　（大地法律事務所　弁護士） 委　　員　浦江　真人　（東洋大学理工学部建築学科教授） 大野 由香子　（慶應義塾大学商学部教授） 丹羽　秀夫　（公認会計士　税理士）
議題	令和４年度国土交通省大臣官房官庁営繕部コンプライアンス推進計画実施状況評価報告書について

委員からの主な意見

業務多忙な中、推進計画に基づいた行動をとるには相当の苦労があるものと思料されるが、令和４年度はコンプライアンスは保持されており、職員の意識も向上されている。コンプライアンスの徹底という観点では、しっかりと推進されてきたものと考えられる。

質疑等

委員からの質問等	回答
本日の資料には様々な重要事項が記載されているが、それを厳守しなかった場合にどのような結果になるのかなどが具体的に書かれると、より注意が行き渡るのではないか。	研修の場などを通じて、コンプライアンスに反する行為がどのような結果を招くのか引き続き周知してまいります。
仕事が欲しい受注者側に端を発する従前のタイプと異なり、昨今は、工事・業務を円滑に進めたいがために、発注側の担当者が不正を行ってしまうケースもあるように思うが、何か考えがあるか。	近年、ご指摘のようなケースが見受けられており、非常に問題だと認識しています。 たとえ、工事・業務の進捗に支障が生じないようにするための行動であっても、ルールの範囲内で行う必要があるのだということを職員に徹底することが重要だと考えております。また、推進計画の中にもございますが、追い詰められた状況になった際に職員が孤立しない、上司に相談できる環境づくりが重要だと考えております。